

粕谷和夫の観察日記。11月4日、湯殿川（八王子）で11月の野鳥定期カウント中の一場面です。アオサギが段差工の滝の上で滝登りをしてくる魚を待ち伏せして、何匹もゲットしていました。

紅葉台



新聞

第161号
2024年
12月20日
発行人：関谷 孝

一緒に お散歩しませんか



歩くことは、健康への第一歩ですね。「**病気の9割は歩くだけで治る**」長尾宏和著にも紹介されています。シニアクラブのメンバーもかつてはどこにでもお散歩に行ったのですが、今では3年間のコロナ禍もあり、歩くことが大変になってきました。

紅葉台はすぐ近くに拓殖大学があります。お散歩のコースにはぴったりです。**近い・安全・季節ごとに自然が美しい・馬に餌ニンジンなどをあげると馬と仲良くなる・若い学生がいて元気になる。学食で安くボリュームのある食事ができる。歩くだけでなく楽しくおしゃべりできる**等など。いいことがたくさんあります。

そこで、ノルディックウォーキングで活躍している池田さんと相談して、天気のいい日に散歩をすることにしました。勿論どなたでも参加できますし、自由ですので気軽に参加してみませんか。

毎週木曜日：午前10時 拓大北門集合
(雨天中止 各自判断)

持ち物：水やタオル 食事代等は各自
で持参ください！12・19最終

1月は、9日より開始します。



三都絆祭 八王子・苫小牧・日光



八王子市が北海道苫小牧市、栃木県日光市と姉妹都市を盟約して50周年になります。これを祈念して、「三都絆祭」が11月17日、東京たま未来メッセと向かい側の駅前テラスで開催されました。当日は、記念式、パフォーマンスのほか、物産販売や文化体験など盛りだくさんでした。江戸時代に活躍した「八王子千人同心」が**つないだ3つの市**の魅力をつらつら楽しめる記念イベントでした。

そもそも同心とは、江戸幕府における役職の1つ。八王子千人同心は、幕府直轄領だった武蔵野国多摩郡八王子（現八王子市）やその周辺に居住し、通常は農耕を営み有事に備える半士半農の郷土のことです。1599年に代官頭の大久保長安が設立したと言われていいます。主な職務は治安維持や大きな合戦への従軍などで、関ヶ原の戦い（1600年）や大阪の陣（1614年）にも出陣しました。世の中が安定すると、要人警護や要所警備を担うようになりました。

「日光火の番」は、そのうちの1つです。幕府の精神的な拠り所だった日光東照宮の防火や警備を1652年から担い、その役目は、200年以上も続きました。また、

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。

蝦夷地(現在の北海道)開拓も担いました。1800年に100人の八王子千人同心が入植。現在の苫小牧市エリア開拓の第一歩を築いたとされています。八王子市はこれらの縁から1973年に苫小牧市と、1974年に日光市と姉妹都市盟約を締結。今年50周年を記念して、三市合同による記念行事を開催しました。学校給食では、ホッキカレーや三都市の食材を使用した海鮮丼など限定グルメも登場しました。また三市のゆるキャラをデザインしたオリジナル記念クリアファイブプレゼントされました。



(ゆるキャラ 左 八王子市・中 苫小牧市・右 日光市)

粕谷和夫の観察日記



この写真を**オギ**だと思っ
ている人は少ないと思いま
す。ほとんどの人はススキだ
と思っているのではないでしょ
うか。このオギの写真を撮っ
た場所は高月水田の休耕田です。

ススキは乾燥した場所に生えますが、オギは田んぼや河原のやや湿ったところに生えます。かつては茅葺の屋根の材料として広く用いられていました。



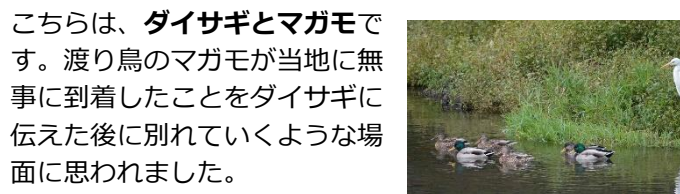
ダイサギが見つめている視線の先に**カワセミ**がいるのが見えますか。ここは湯殿川（八王子）の川淵で、彼らの漁場です。湯殿川は川幅が狭いため鳥が見やすく、鳥も人をあまり恐れないので、このような写真が簡単に撮れます。

9月22日に我が家の鉢植えのタイワンホトトギスの葉を食べるルリタテハの幼虫をアップし「ルリタテハも守りたいし、タイワンホトトギスの花もみたいし、悩んだ末幼虫を駆除しました」その結果、タイワンホトトギスが見事に復活し、綺麗な花を咲かせてくれました。

八王子の河川ではあちこちでダイサギが出没します。ここは北浅川の陵北大橋付近。11月6日には湯殿川のダイサギとカワセミをアップしました。こちらは、**ダイサギとマガモ**です。渡り鳥のマガモが当地に無事に到着したことをダイサギに伝えた後に別れていくような場面に思われました。

こちらは、**ダイサギとマガモ**です。渡り鳥のマガモが当地に無事に到着したことをダイサギに伝えた後に別れていくような場面に思われました。

こちらは、**ダイサギとマガモ**です。渡り鳥のマガモが当地に無事に到着したことをダイサギに伝えた後に別れていくような場面に思われました。



紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。